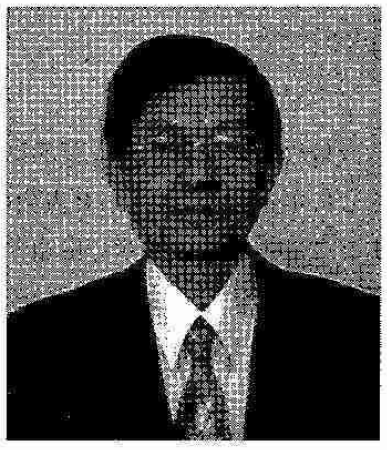
支部長挨拶



6月3日の北海道支部の平成20年度第1回理事会において、第26期の支部長をお引き受けすることになりました岡野です。　昨年の第25期の後半1年に引き続き、北海道支部の発展のために精一杯努力したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年の北海道は、台風による重大な被害や大きな地震の発生がなく比較的穏やかな一年でしたが、年が明けて2月下旬には発達した低気圧により全道的に大雪・暴風雪となって交通機関の運休や道路の通行止めにより住民生活に大きな影響を及ぼしました。4月1日には道東を中心に大雪になって多くの交通障害等が発生し、異動期も重なってご苦労された方もおられたことと思います。

また、7月下旬から8月はじめにかけては、近畿や関東甲信地方などで局地的な大雨となって、河川の増水等により尊い命が犠牲となってしまいました。全国的に見ますと、重大な気象災害が発生しており、社会の気象に対する関心が高まり、気象学の発展への期待も大きくなっています。

こうした中、我が国の防災気象をさらに推し進めるためにも、大学や大学院など教育研究機関や、防災気象業務を担当する行政機関、あるいは気象に関連する企業・団体などが、それぞれが持つ調査研究に関する機能や知見を持ち寄って検討することで、気象の研究をより高いレベルのものとすることが出来るのではないかと考えます。北海道支部においても、このような研究連携が重要な課題と認識しております。

気象学会の目的も、「気象学の研究を盛んにし、その進歩をはかり、国内および国外の関係学会と協力して学術文化の発達に寄与すること」とされています。

北海道支部においては、昨年10月には北海道大学で全国秋季大会を3日間開催し、また、気象講座やサイエンスカフェを含む特別気象講演などの事業を実施いたしました。会員の皆様のご協力ありがとうございました。

今年も6月21日に「かでる2・7」で札幌管区気象台と共同開催による気候講演会を始めとして、7月28・29日に札幌市青少年科学館と共催した第26回気象講座「新しい気象」には21名の一般市民の方々が参加され、2日間にわたり熱心に受講されていました。

大気科学は地球環境問題や地域防災など、社会生活と密接な関わりあいを持つ重要な学問分野です。平素から私たちが暮らす自然環境に目を向け、科学する心を持つことが、私たち自身を自然災害から守ることにつながるものと考えております。

私どもの多くの事業や研究発表会により、広く市民の方々に気象に興味を持って頂き、あるいは会員の拡大を図り、気象学会の裾野を広げたいと思います。

気象学の発展、日本気象学会の発展に、今後とも会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

(社) 日本気象学会北海道支部

支部長　岡野　誠
(札幌管区気象台長)